

【関東信越税理士会新潟支部長賞】

「私たちが守る」

新潟県立

新潟高等学校

二年 小林 莉緒

戦後八十年。私は節目の年であるこの夏、家族で広島を訪れました。

広島平和記念公園では、原爆がどのように落とされたのか、そこにいた被爆者の方たちはどのような思いで過ごしたのか、そしてその後、広島はどのように復興してきたのかを学びました。今まで漠然とした教科書に書かれた歴史として学んできたものが、実際に現実で起こった出来事であることを改めて実感し、心がとても締めつけられる思いがしました。平和な社会を実現することの重要さを考えるきっかけとなりました。また、資料館には多くの外国人の方も訪れており、世界中の人々が平和について考えようとしている姿に、私は嬉しくなりました。

帰り道、家族みんなで感想を話し合っていたとき、父親が「この平和記念公園も税金によってつくられ、保存・整備されているのだ」と教えてくれました。そのとき、私は少し嬉しく思いました。私たちが納めている税金が平和の象徴である地を守るために使われていると知り、私も社会の一部として関わっているような誇らしく感じたからです。

税金と聞くと、どこかマイナスのイメージを持っている人が多いように思います。最近の世の中では「税金廃止」を訴える声をよく耳にします。確かに、税金がなくなれば私たちはその分を自

分たちに使えるかもしれません。ただ、もし税金がなくなってしまうとき、平和記念公園や資料館のような施設はどうなってしまうのでしょうか。現在、広島平和記念資料館の入館料は大人二百円、中学生以下は無料です。多くの人が訪れやすいようにされています。しかし、税金がなければ保存・整備のための費用を賄うために入場料をもっと高くせざるを得なくなるかもしれません。そうなれば、ここに訪れる人が減り、平和について考える機会が失われてしまうでしょう。

日本は世界で唯一原爆が投下された国です。私たちには世界中に、後世に、平和・戦争の恐ろしさについて訴えていく責任があります。そのためにも、広島の地はとても大切な場所です。そして、私たちは、税金によって、その大切な場所を支えています。

税金は私たちを苦しめるためにあるものではありません。よりよい社会を実現するためにあるのです。私はもっと多くの人に、「税金を通じて自分たちも社会をよりよくする力になっている」と思ってもらえます。そして、これからもこの場所がもっと多くの人にとって、平和について考えるきっかけとなることを心から願います。